



アトピーへの正しい視点 みんなで考える アトピー ジャーナル

JADPA



NPO法人日本アトピー協会

発行：NPO法人 日本アトピー協会 〒541-0045 大阪市中央区道修町1-1-7日精産業ビル4階 電話：06-6204-0002 FAX：06-6204-0052 Eメール：jadpa@wing.ocn.ne.jp ホームページ：http://www.nihonatopy.join-us.jp/

CONTENTS

- ◆アトピー・アレルギーの今を知る P1~P3
◆法人賛助企業様ご紹介 第28回 P3
◆2015年11月12日「いい皮膚の日」市民講座 P4~P5
◆ハーイ!アトピーつき合い40年の友実です P6
◆ちょっと気になるニュース P6
◆ドクターインタビュー P7
◆ATOPICS 第52回日本小児アレルギー学会市民公開講座のお知らせ P8



アトピーアレルギーの今を知る

2006年、イギリスでフィラグリン遺伝子(FLG)異変(皮膚形成タンパク質の一種)が発表され、2009年には角質細胞間土の隙間をバリアするタイトジャンクションの可視化により、ランゲルハンス細胞(樹状細胞)が皮膚バリアを壊すことなく、表皮から飛び出して侵入した抗原を捉えT細胞に知らせることが解明されました。

変異は尋常性魚鱗癬の原因であり、アトピーの重要な発症因子でもあることが明らかとなっています。

日本でのFLG変異とアトピーの関連性は?

では、日本ではどうなのでしょう。日本人特有のFLG変異がある可能性について検討されたところ、日本人に特異的な2つのFLG変異が見出されました。その後、日本人あるいはアジア人に特異的なFLG変異が5つ、またヨーロッパ人で同定されたFLG変異が日本人でも1つ報告され、現在では8つのFLG変異が日本で同定されています。

* 皮膚のバリア障害とフィラグリンの関係 *

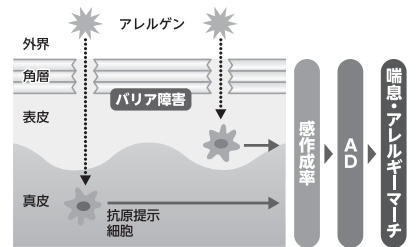
FLG変異はアトピーの重要な発症因子?

角層のバリア機能に障害があると、外からの異物の侵入が容易になるため、外来アレルギーに対する感作が成立しやすく、アトピーの発症へ繋がると思われます。さらに、角層下部に存在する細胞の間では、細胞間接着構造であるタイトジャンクションが形成され物質が通るのを防いでいます。

アトピー治療に役立つFLG研究に期待

FLG変異により各層のバリア機能に障害が生じると、アレルギーは容易に角層に入り込み、抗原提示細胞に提示され、感作が成立した結果、アトピーが発症し、喘息・アレルギーマーチへと進行していくという仮説が提唱されています。やはり、皮膚のバリア機能をサポートするような保湿剤などによるスキンケアの重要性が、病態生理学の面からも証明されつつあります。

(フィラグリン欠損による角層バリア障害を持つ皮膚)



患者さんからのご相談はいつでもお受けします。

症状がいつに改善されず長びく治療にイライラが募り先行きを悲観...ちょっと待った! 全国約600万人の方があなたと同じ悩みをかかえています。ここはみんなで「連帯」し、ささえあいましょう。日本アトピー協会をそのコア=核としてご利用ください。

ご相談は

電話：06-6204-0002 FAX：06-6204-0052
メール：jadpa@wing.ocn.ne.jp
お手紙は表紙タイトルの住所まで、なおご相談は出来るだけ文面にしてお願いします。

◆協会は法人企業各社のご賛助で運営しております。 ◆患者さんやそのご家族からのご相談は全て無料で行ってまいります。

* 皮膚バリア機能を高める化合物発見! *

フィラグリンの発現を促してアトピー改善!?

アトピーではバリア機能が低下することで、異物に対する免疫応答が過剰になり症状が悪化する可能性があります。前述にもあった、バリア機能を保つうえで重要な働きを担うフィラグリン蛋白の発現を促進し、症状を改善させる化合物が世界で初めて発見されました。培養表皮細胞を用いて1,000以上の市販の化合物ライブラリーから、フィラグリンの発現を亢進する物質をスクリーニングしたところ「JTC801」という物質が「培養表皮細胞のフィラグリン(プロフィラグリン)の発現を上昇させる」ことがわかり、「ヒトの皮膚に近い構造を持つ3次元表皮培養にこの「JTC801」を加えたところ、フィラグリン蛋白の発現が亢進し、フィラグリンモノマーの産生が上昇している」ことが明らかとなったようです。また、「片側のフィラグリン遺伝子に変異を持つマウスに「JTC801」を投与したところ、フィラグリンの発現が上昇している」こともわかりました。さらには「アトピー性皮膚炎の動物モデルを用いた実験では、「JTC801」を内服させたマウス群で皮膚のフィラグリン蛋白が発現亢進しており、このことでアトピー性皮膚炎様の症状が改善することがわかりました」と示されています。今後、フィラグリンをターゲットとした新たな治療の戦略や、新規内服治療剤の開発が期待されるそうです。

* 汗で痒くなる原因はカビ菌だった? *

カビが出すタンパク質が汗に溶けて体内へ

アトピー患者さんの約80%の方は汗に対するアレルギーがあり、膝の内側や裏、顔、首といった汗の溜まりやすい部分に湿疹が出やすいことから、汗は特に重要視されてきました。アトピーの悪化因子の中で「汗」と答えたアトピー患者さんが最も多く、約42%の患者さんが汗をかくと悪化するという報告もあります。「アトピー性皮膚炎治療ガイドライン2012」においても、汗は原因・悪化因子として明記されているように、汗はアトピーにとって切っても切れないものです。しかし、汗の中のどの成分がアトピー悪化の原因なのかはわかっていませんでした。広島大学大学院の秀道広(ひでみちひろ)教授らの研究グループは、アトピー患者さんが汗によって痒みなどのアレルギー反応を起こすのは、健康な人の皮膚にも存在するカビが出すタンパク質(MGL_1304)が汗に溶け、皮膚から体内に入り込むことが原因であることを突き止めました。

アトピー患者さんの汗の中でも、特にアレルギー反応で痒みの元となる物質「ヒスタミン」を大量に含んだ汗を調べ、タンパク質の一部であるアミノ酸の特有な配列をつかみました。その配列をタンパク質のデータベースで調べたところ、人間の皮膚に存在するカビの仲間マラセチア属の真菌の一種「グロボーサ」のものと一致しました。この配列を基にタンパク質を作り、アトピー患者さんの血液に加えると「ヒスタミン」が出てきたのです。アトピーでない方ではこのようなアレルギー反応が起こらなかったため、このタンパク質が汗アレルギーの原因と結論づけられました。

タンニン酸で汗対策が可能になるかも

また、汗に対する対策も研究されています。小学1年生から中学3年生までのアトピー中等症以上の症例を対象に、アトピーに対するシャワー浴の効果が検討されたところ、シャワー浴を実施した期間の前後で優位な症状の改善が見られ、より暑い時期にシャワー浴を行うと、より改善が見られたようです。また、汗はアトピーの悪化因子とされている一方で、アトピーの方は発汗反応が低下しているという報告もあります。また、入浴ではアトピーの方は発汗が一般の人より少なく、発汗が起こるまでの時間が長いことも報告されています。汗は体温調節や皮膚表面の水分保持など重要な役割も担っているため、汗をかくことを控えるのではなく、汗を長時間放置しないことが大切ですが、日常生活で何度もシャワー浴をしたり、拭いてキレイにしたりすることは難しいもの。当研究では、人体への安全性が確認されている天然物の中から、精製汗抗原を不活化させる物質を探索し、タンニン酸が比較的高い活性を持つことを見出しました。スプレーやウェットティッシュなどの携帯可能な形でタンニン酸を利用できれば、汗への対策ができそうですが、柿タンニンだと渋くて臭いのでしょうか?

* 「皮膚細菌叢」という考え方 *

皮膚の細菌叢を整える新たな治療戦略

腸内細菌叢(腸内フローラ)は、私たちの健康維持に重要ですが、皮膚も腸と同じように、外界からの病原菌や異物からの侵入を防ぐためのバリア機能があり、何らかの原因で皮膚のバリア機能が壊れるとアトピー性皮膚炎へと繋がっていきます。

近年、遺伝的背景のある古典的なアトピーの方よりも、家系にはアトピーの方がいない場合が大半を占めているようです。その原因は、例えば、垢すりタオルや洗剤・浴用洗剤などによる物理的な刺激、食生活の偏りによる栄養不足、ストレス、腸内フローラの異常、食物アレルギーと様々です。また、最近では皮膚のフローラ(細菌叢)による影響も考えられています。

慶応義塾大学と米国の研究グループによる研究では、「アトピー性皮膚炎患者の皮膚では、異常細菌叢の状態がある。すなわち皮膚の常在菌の細菌の種類が著しく減り、その過半数を黄色ブドウ球菌が占めるといふ異常な状態にあることが多い」こと、そして「その異常になった細菌叢を改善させるとアトピー性皮膚炎の症状が改善することをマウスで証明し、皮膚の細菌叢(フローラ)を整えることが、今後のアトピー性皮膚炎の新しい治療戦略になることが期待できる」と報告されています。

アトピー患者さんの皮膚から細菌培養を行うと、黄色ブドウ球菌が多数発育することは40年以上前から知られていましたが、それが炎症の原因なのか、慢性炎症の結果なのか長らく議論されてきました。アトピーと黄色ブドウ球菌の関係について、適切な動物モデルが今まで存在していなかったため、この研究は大きな成果だったと思われます。ips細胞で正常な皮膚細菌叢の培養と移植なんてハイリスクの夢物語でしょうか。

黄色ブドウ球菌の毒素で皮疹を発症

また、バリア機能の低下したアトピー性皮膚炎の皮膚では、異常細菌叢の状態を引き起こし無秩序に黄色ブドウ球菌が増殖、IgE値が高い体質があると、黄色ブドウ球菌の出す毒素に過剰に反応し、皮疹の原因になると推察されています。ただし、抗生剤の安易な服用は腸内細菌への悪影響があるため治療方法としては難しいようですし、また、アトピーでは、黄色ブドウ球菌はバイオフィーム(※)を形成しているという報告もあり、容易には退治できないようです。

※バイオフィーム:種々の菌が集まり、様々なバリア物質で菌を囲み、免疫や抗生剤などが効かないように防御している状態。

* 保湿でアトピー発症を予防? *

新生児への保湿でアトピー発症リスクが低下

近年、アトピー予防に関する保湿剤の有効性を調べるランダム化比較試験の結果が発表されました。これを受け、日本アレルギー学会の「アトピー性皮膚炎の診療ガイドライン2015」では、新生児期からの保湿剤塗布によりアトピー性皮膚炎が予防しうる可能性について記載が追加されています。この研究は、国立成育医療研究センター生体防御系内科部アレルギー科医長の久矢幸弘先生の研究グループによって発表されました。

アレルギーになりやすい体質の両親を持つ新生児の赤ちゃんを2つのグループに分け、一方のグループには生後すぐの段階から毎日1回以上、保湿剤を全身に塗ってもらうよう指導し、もう一方のグループには、通常のスキンケアを行ってもらった結果、生後32週までにアトピーを発症した赤ちゃんは、保湿剤を塗ったグループでは19人、対照グループでは28人となりました。これは保湿により発症リスクが34%低下したことを示しています。アトピーは、生後すぐから1歳くらいまでに発症しやすいため、この時期の対策が大切だと言えるでしょう。

アトピーを発症すると食物アレルギーなど他のアレルギーにもなりやすいこともわかっており、アトピー性皮膚炎を予防することは、その他のアレルギーを減らすことにも繋がると期待されています。

~保湿剤でのスキンケアの方法~

今さらかもしれませんが、ここでスキンケアのおさらいです。まず、保湿剤を塗る前に入浴して全身をキレイにします。石けんをしっかり泡立て、そっと揉むように洗い、洗った後は石けんを十分に洗い流します。そして保湿剤がローションの場合、手のひらに10円玉程度の大きさの量を垂らして伸ばすと、両手のひら全体くらの面積を塗れるようです。チューブのクリームなら、指の最初の関節くらいまで同じ面積を塗ることができます。全身にくまなく塗るため、保湿剤はかなりの量を使います。顔を塗る際には、擦り込むのではなく薄皮一枚覆うように均一に塗りましょう。保湿剤によって皮膚のバリアが十分に保護され、刺激物や細菌を寄せ付けず、皮膚の荒れを防ぐことができます。

* スキンケアで食物アレルギーを防ぐ *

妊娠や授乳中の母親の食物制限は?

ラジオNIKKEIの「マルホ皮膚科セミナー」2015年7月30日放送より、「第44回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会⑤ シンポジウム5-3 食物アレルギーはスキンケアにより予防できるか?」にも興味深い内容がありました。

まず、乳児期のアトピーと食物アレルギーの関係については、食物アレルギーの初期の表現型としてアトピーという形をとるのではないかという仮説や、有病率の高い特定の食物を母親が妊娠中から除去することで、アトピー発症を予防できるのではないかという仮説がありましたが、欧州で妊娠中や授乳中の母親に食物制限を行うランダム化比較試験が行われ、この仮説は否定されました。今では世界中の食物アレルギーのガイドラインに、妊娠中や授乳中の母親の食物制限は推奨しないと書かれています。

生後すぐのアトピーは食物抗原で感作が成立

しかし、生後半の時点で湿疹を有していた子どもは、そうでない子どもに比べて5倍以上も、1歳時点で即時型の食物アレルギーを発症する確率が高いことがわかりました。また、生後3カ月の時点で重症度の高いアトピーの場合は、25.6倍も食物抗原の感作を受けやすいこともデータで示されています。このデータは、皮膚が炎症を起こしてバリアが低下していると、経皮的に食物アレルギーに感作を受けやすくなることを示唆しているとも言え、なぜ母親も乳児も摂取したことがない食物抗原に対する食物アレルギーを発症するのかという現象にも説明がつきます。ただ、経皮感作が起こるためには、乳児が生活している環境中に食物抗原が存在する必要があります。英国では、ピーナッツの消費量に比例して寝室や居間のホコリに含まれるピーナッツ抗原量が多いという報告がありますが、卵は多くの国で消費量の多い食べ物ですから、英国でのピーナッツと同様に多くの家庭のホコリから抗原が検出されると推測されています。また、離乳食の摂取を適切な時期に開始する(開始を遅らせない)ことも大切だと言われています。

ピーナッツアレルギーで世界共同声明

ピーナッツアレルギーは、重症例も多く先進国の1~3%の子どもたちに認められ増加を続けています。アメリカではこの10~15年で有症率が3倍になるなど、大きな問題となっています。この共同声明は、日本アレルギー学会を含む世界10学会により発表されました。イギリスの研究チームによる結果では、ピーナッツアレルギーがなく、アトピーや卵アレルギーを有し、ピーナッツアレルギーを発症するリスクが高い4~11ヶ月の乳児で、ピーナッツを5歳まで食べるグループと避けるグループに分けてアレルギーの割合を比較したところ、ピーナッツを含む食品を食べていた子どもは、5歳まで避けていた子どもに比べ、ピーナッツアレルギーを発症するリスクが70~86%も低い結果が出ました。これは、

ごく少量からアレルゲンを摂取して耐性を獲得するピーナッツアレルギーに対する経口免疫療法でもあり、これまでの除去食療法などと比較すると、その有効率は高く今後の食物アレルギー対策の指針となりそうな勢いですが、その反面、アナフィラキシーショックなど重篤なアレルギー反応を起こす可能性も高く、その他の食物アレルギーに対して同様の結果が出るかどうかは、まだまだこれからです。卵や乳、そして小麦などに対する同様の研究が進み、安全性の裏付けも進むよう願いたいところです。

食物アレルギーの症状を抑える分子発見!

2015年7月10日付の「日経プレスリリース」には、「東大、食物アレルギーの症状を抑える分子を発見」と掲載されていました。この研究は東京大学大学院農学生命科学研究科のグループによって発表されました。ポイントは、

■食物アレルギーを発症させたマウスを用いて、アレルギー反応を抑える物質を発見した。

■発見した分子は、アレルギー反応を引き起こす原因となるマスト細胞(※)の数を減らす働きを持つことがわかった。

■食物アレルギーの患者は増加の一途をたどっている一方で、根本的な治療方法がない。またマスト細胞の腸における増加が食物アレルギーの発症や進行に関与していることが示唆されていましたが、マスト細胞がどのようにして増加するのか、そのメカニズムは不明でした。本発見は食物アレルギーの根本的な治療方法の開発に繋がる可能性がある。そして、「本研究はマウスの食物アレルギーモデルを用いて、マスト細胞が産生するPGD2が、SDF-1αやMMP-9といったマスト細胞の浸潤を促進する分子の発現を抑えることで、食物抗原に反応したマスト細胞自身の増加をおさえて症状の悪化を防ぐ作用を持つことを初めて示した」とされています。今後のPGD2に関する研究に期待したいところです。

※マスト細胞:全身に分布し強力な起炎物質であるヒスタミンや多数のプロテアーゼ(酵素)、ヘパリン(強力な抗凝固作用をもつ多糖類の一種)などをもち、即時型アレルギーでヒスタミンを遊離する。

今を知って前向きに!

「研究はともかく、とにかくこの痒いの何とかして〜」と患者さん方からは、読まれたあとの感想を頂きそうです。明日の話より今の痒みを何とかする方が確かに助かりますね。今回ご紹介した内容は、アトピーやアレルギーに関する情報の中でも代表的なものをチョイスしていますので、ほかにも様々な研究結果が報告されています。これらの研究結果が報告されることで、皆さんを診察して下さっている皮膚科や小児科専門医のドクターが治療に反映され、新しい治療の選択肢にもなっていきます。先生方は、様々な立場でアトピー・アレルギーについて、その解明にご尽力くださっています。「先生にお任せ!」ではなく、自らも前向きに治療を受けることで、見えてくる結果があるのかもしれない。

法人賛助企業様ご紹介 第28回

敬称略

協会は多くの法人賛助会員様の年会費によって会務を行っており、本紙面を通じまして日頃お世話になっております法人様を順次ご紹介しております。関係各位にコメントをお願いしておりますので、ぜひ患者さんへの一言をお願い致します。

岩井商事株式会社

平成26年 ご入会

- ◆ 所在地 〒650-0003 兵庫県神戸市中央区山本通2丁目2-7
- ◆ 電話 078-241-8585
- ◆ 業種 住宅事業、食品事業、化粧品事業、クロレラ他健康食品など。
- ◆ 関連商品 ドクターアシュケア(化粧品)
- ◆ 一言

ドクターアシュケアは、優れた抗菌・消臭作用が長時間持続する成分『持続型ヒノキチオール』を使用しているため、お肌を長く清潔に保つことができます。これは、ヒノキ・ヒバの抽出液に含まれる成分で、食品防腐剤にも使用されている安心のできる成分です。敏感肌、ニキビ・吹き出物・湿疹等、お肌のトラブルでお悩みの方にも、毎日安心してご利用頂ける低刺激性のスキンケア商品です。

株式会社河上工藝所

平成22年 ご入会

- ◆ 所在地 〒799-1362 愛媛県西条市今在家859-1
- ◆ 電話 0898-35-2452
- ◆ 業種 オーガニックコットンをはじめ、各繊維製品の処理加工及び繊維製品の販売。
- ◆ 関連商品 オーガニックコットンタオル・草木染製品(ベビー用品・マフラー・手拭い など)
- ◆ 一言 化学薬品を使用せず、天然素材だけの人に優しく環境に優しい加工を心掛けています。水は全て四国・石鎚山の伏流水(名水100選のうちぬきの水)を使用。酵素・天然石鹼でたっぷり時間を掛け丁寧に処理加工し、染色は天然の植物から抽出して着色。吸水性・通気性の良い安心・安全な商品づくりを心掛けています。特にオーガニックコットンの商品は、明治製菓の工学博士との共同開発による食品用酵素で加工し、肌に優しい極上の仕上がります。

2015年「皮膚の日」催事

毎年恒例となっております11月12日は、「いい皮膚の日」です。全国各地で皮膚科専門医による講演会やイベントが開催されます。アトピー・アレルギーの演題ばかりではありませんが、参加は全て無料です。相談会などの開催もありますのでご検討ください。尚、発行日前の開催行事につきましては一部割愛させて頂いております。また小誌が会期過ぎの到着となった場合はご容赦ください。

札幌市
 日 時：11月7日(土)14:00~17:00
 会 場：札幌プリンスホテル 国際館Bパミール
 ・市民公開講座「アトピー性皮膚炎」
 1.「アトピー性皮膚炎とはどんな病気？」
 札幌医科大学 澄川 靖之先生
 2.「アトピー性皮膚炎と合併症」
 北海道大学 藤田 靖幸先生
 3.「アトピー性皮膚炎の治療」
 桑園オリーブ皮膚科クリニック 米田 明弘先生
 4.「アトピー性皮膚炎と老人性乾皮症は
 ドライスキンの病気」芝木皮ふ科医院 芝木 晃彦先生
 ・市民無料相談会

問 廣仁会札幌皮膚科クリニック(根本川村) ☎011-221-8807

旭川市
 日 時：11月8日(日)
 会 場：大雪クリスタルホール
 ・市民公開講座
 1.「乳幼児の皮膚疾患およびスキンケアについて(仮)」
 旭川医科大学 井川 哲子先生
 2.「加齢に伴う皮膚の病気」旭川医科大学 岸部 麻里先生

問 旭川医科大学皮膚科学講座(堀) ☎0166-68-2523

函館市
 日 時：11月14日(土)
 会 場：函館市亀田福祉センター
 ・市民公開講座「演題未定」
 ・市民無料相談会

問 日吉皮膚科クリニック(横田) ☎0138-30-3003

釧路市
 乾癬の会
 日 時：11月8日(日)9:45~12:00
 会 場：北見芸術文化ホール5階
 講演
 ・「乾癬をやさしく理解するための10項目」
 聖路加国際病院 衛藤 光先生
 ・質疑応答

問 小林皮膚科クリニック ☎011-738-5511

青森県
 日 時：11月8日(日)14:00~16:00
 会 場：八戸市公会堂文化ホール講義室
 ・市民公開講座
 1.「皮脂欠乏症と皮脂欠乏性湿疹」
 湊高台皮膚科 石川 博康先生
 2.「うつろ皮膚病」たんぼぼ皮膚科クリニック 佐藤 俊先生
 司会 高橋皮膚科 高橋 秀東先生

問 長島皮膚科クリニック ☎017-776-1112

岩手県
 日 時：11月15日(日)
 会 場：アイーナ(いわて県情報交流センター)8階会議室812
 ・講演会「シミ、しわ、ニキビの最新治療」
 1.「もっときれいに、さらに美しく
 ~あなたのシミ、しわ、きになりませんか?~」
 岩手医科大学 森 志朋先生
 司会 中村・北條クリニック 中村 浩昭先生
 2.「ニキビは皮膚科へ:進化するニキビ治療」
 虎の門病院 林 伸和先生
 司会 岩手医科大学 赤坂 俊英先生

問 中村・北條クリニック ☎019-636-3555

宮城県
 日 時：11月15日(日)
 会 場：仙台市商工会議所 7階大会議室
 ・記念講演会「演題未定」
 東北大学 芳賀 貴裕先生
 ・スキンケア製品の紹介、展示

問 仙台医療センター 皮膚科 ☎022-293-1111

山形県
 日 時：11月8日(日)14:00~16:30
 会 場：山形市保健センター 大会議室
 ・皮膚の健康セミナー
 1.「水虫は皮膚科へ!
 ~専門家が教える完治への5つのポイント~」
 つばさ皮膚科 橋本 秀樹先生
 2.「皮膚のアンチエイジング
 ~いつまでも美しい肌を保つために~」
 田中皮膚科医院 鈴木 利明先生

問 つばさ皮膚科 ☎0237-43-1241

福島県
 日 時：11月15日(日)
 会 場：福島テレサ(福島市)
 ・市民公開講座
 「演題未定」 福島県立医科大学 大塚 幹夫先生

問 伊藤皮膚科クリニック ☎024-551-1121

茨城県
 日 時：11月8日(日)14:00~16:00
 会 場：茨城県開発公社ビル 1階会議室
 ・「乾癬について知ろう!」講演 14:00~15:10
 1.「乾癬の病態・症状」水戸協同病院 田口 詩路麻先生
 2.「乾癬の治療」筑波大学附属病院 古田 淳一先生
 ・「乾癬について語ろう!」懇談会 15:10~16:00

問 森医院 ☎029-226-3555

栃木県
 日 時：11月15日(日)13:00~16:00
 会 場：宇都宮市保健センター ララスクエア宇都宮9階
 ・「皮膚の健康」無料相談会

問 久保川皮膚科医院 ☎028-627-0505

群馬県
 日 時：11月15日(日)14:00~15:00
 会 場：群馬ロイヤルホテル 本館2階「まゆだま」
 ・市民公開講座・講演会
 「全身疾患と皮膚-皮膚に出てくるサインから全身の
 病気・内臓の病気が見えてくる!」
 聖路加国際病院 衛藤 光先生

問 前橋皮膚科医院 ☎027-231-8675

新潟県
 日 時：11月14日(土)18:15~
 会 場：新潟グランドホテル
 ・講演会
 「ざ瘡と皮膚細菌感染症のトピックス」
 岡山大学 山崎 修先生

問 伊藤皮膚科クリニック ☎0258-35-2001

長野県
 日 時：11月1日(日)15:00~16:00
 会 場：トイゴ西 4階 長野市生涯学習センター
 ・市民公開講座
 「皮膚のがん」 信州大学 宇原 久 先生

問 池川皮ふ科医院 ☎026-286-5656

東京都
 日 時：11月8日(日)10:00~14:30
 会 場：慶應義塾大学附属病院2号館 臨床講堂兼大会議室
 ・足裏ホクロ無料相談会
 (ターモスコピーによる足底母斑の検診)

問 東京都皮膚科医会事務局 ☎03-5332-1112

埼玉県
 日 時：11月8日(日)13:00~16:00
 会 場：さいたま赤十字病院 5階講堂
 ・講演会「つま先まですこやかに」
 1.「アトピー性皮膚炎の治療とスキンケア」
 埼玉医科大学病院 土田 哲也先生
 2.「足や爪が痛むわけ-タコ・巻き爪ができる理由と対策-」
 済生会川口総合病院 高山 かおる先生
 ・皮膚のトラブル相談コーナー
 ・スキンケア製品展示・紹介

問 埼玉県皮膚科医会 ☎048-824-2611

千葉県
 日 時：11月8日(日)13:00~
 会 場：三井ガーデンホテル千葉
 ・市民公開講座「アトピー性皮膚炎+食物アレルギー」
 千葉大学大学院 松江 弘之先生
 千葉県こども病院 星岡 明先生

問 ふいなばし皮膚科クリニック ☎047-407-3772

神奈川県
 日 時：11月3日(火)14:00~15:30(開場13:00)
 会 場：横浜情報文化センター 情文ホール
 ・講演
 「本当は怖い美容皮膚科 シミ・シワの治療を中心に」
 川端皮膚科クリニック 川端 康浩先生
 ・Q&Aコーナー/数名の皮膚科医で
 パネルディスカッション風に行う
 ・お肌のトラブル相談コーナー/
 ブースで数名の皮膚科医が来場者の質問を受ける
 ・無料肌年齢測定コーナー
 ・スキンケア製品展示・紹介・配布コーナー

問 こばやし皮膚科クリニック ☎0466-28-4112

山梨県
 日 時：11月15日(日)10:00~15:00
 会 場：山交百貨店(甲府駅前)
 ・顔と手足の皮膚がん無料検診

問 山梨県立中央病院皮膚科 ☎055-253-7111

静岡県
 日 時：11月14日(土)13:00~15:30
 会 場：沼津市立図書館 4階
 ・市民公開講座 13:00~14:00(視聴覚ホール)
 「皮膚から見つける内臓の病気~早期発見のために~」
 国際医療福祉大学熱海病院 佐々木 哲雄先生
 ・皮膚病無料相談 14:00~15:30(講座会議室3-4)

問 皮膚科玉森クリニック ☎055-975-3345

富山県
 日 時：11月8日(日)14:00~15:30
 会 場：富山県立中央病院5階ホール
 ・皮膚の日講演会
 1.「高齢者に多い皮膚疾患」富山赤十字病院 東 晃先生
 2.「乾癬-最近の話題-」富山大学大学院 三澤 恵先生

問 谷口医院皮膚科 ☎0766-22-1220

石川県
 日 時：11月8日(日)13:00~15:00
 会 場：ホテル金沢
 ・講演会「知ってほしい 皮膚の病気」
 1.「みずむしの予防と治療」
 金沢医科大学 藤井 俊樹先生
 2.「皮膚のしくみとスキンケア」
 金沢医科大学 西部 明子先生
 ・皮膚の事 なんでも無料相談会

問 金沢医科大学皮膚科学講座 ☎076-218-8141

福井県
 日 時：11月15日(日)14:00~16:00
 会 場：エルパホール
 ・県民公開講座
 「放っておいていませんか?その皮膚トラブル~
 紫外線とその皮膚障害について~」
 福井県済生会病院 長谷川 義典先生
 ・皮膚病相談

問 石黒皮膚科クリニック ☎0776-51-6700

岐阜県
 日時: 11月8日(日) 13:30~15:00
 会場: 岐阜大学サテライトキャンパス 岐阜スカイウイング37 東棟4階
 ・講演会 「2演題未定」
問 岐阜大学皮膚科 ☎058-230-6397・6394 *

愛知県
 日時: 11月8日(日) 10:00~17:00
 会場: 愛知県医師会館 8・9階(名古屋市中)
 ・講演会
 「健康な皮膚を保つ最新情報」
 藤田保健衛生大学 松永 佳世子先生
 ・皮膚疾患の無料健康相談
 ・花王による肌解析とスキンケアアドバイス
 ・中日新聞(愛知県版)「皮膚の日」の一面広告掲載
問 タナカ皮膚科 ☎052-581-5511 *

三重県
 日時: 11月15日(日)
 会場: アストホール(津市 アストプラザ4階)
 ・市民公開講座
 1.「アトピー性皮膚炎について(仮題)」
 三重大学医学部附属病院 水谷 仁先生
 2.「皮膚がんについて(仮題)」
 伊勢赤十字病院 中村 保夫先生
問 ときめ皮膚科クリニック ☎059-355-1112 *

滋賀県
 日時: 11月15日(日) 14:00~15:00
 会場: ピアザ淡海
 ・皮膚の日・市民フォーラム
 「かゆみのメカニズムと対処法」
 だんの皮膚科クリニック 段野 貴一郎先生
問 加地皮膚科医院 ☎077-561-0502 *

京都府
 日時: 11月8日(日) 13:30~15:40
 会場: メルパルク京都 5階 会議室A(JR京都駅前)
 ・開会挨拶 京都皮膚科医会 会長 松村 康洋先生
 ・市民講座「皮膚の日」講演会「もっと知りたい皮膚のこと」
 1.「じんましん七不思議」
 京都第二赤十字病院 池田 佳弘先生
 2.「知って得するヘルペスの話」
 京都市立病院 小西 啓介先生
 ・皮膚の病気の相談タイム 14:40~15:40
 ・皮膚科専門医による無料相談コーナー
 ※参加費無料、事前申込なし、当日会場にて受付
問 京都皮膚科医会 ☎075-354-6105 *

大阪府
 日時: 11月15日(日) 13:30~16:00
 会場: 毎日新聞社オパールホール(大阪市)
 ・講演会
 1.「痛みをとまなう皮膚疾患~帯状疱疹ってどんな病気?~」
 奈良県立医科大学 浅田 秀夫先生
 2.「知っていますか?食物アレルギーとアトピー性皮膚炎の本当の関係」
 ~食物アレルギーを予防するために大切なこと~
 大阪府立呼吸器アレルギー医療センター 片岡 葉子先生
問 大阪皮膚科医会事務局 ☎0723-66-0221 (近畿大学医学部皮膚科医局内) *

兵庫県
 日時: 11月7日(土) 15:00~17:00
 会場: 伊丹シティホール 3階 光琳の間
 ・講演会
 1.「冬によくみられる皮膚疾患」
 公立学校共済組合 近畿中央病院 樽谷 勝仁先生
 2.「皮膚がんを知っていますか」
 市立伊丹病院 南 祥一郎先生
問 伊丹市医師会 ☎072-777-1111 *

奈良県
 日時: 11月3日(火) 13:00~
 会場: 学園前ホール(奈良市西部会館市民ホール)
 ・講演会
 1.「日常生活での傷 やけどのやさしい治し方」
 マミ皮膚科クリニック 岡田 匡先生
 2.「知っておきたいかぶれ」
 あべ皮膚科クリニック 安部 千佳先生
 ・皮膚科なんでも無料相談会
問 山科皮膚科医院 ☎0743-53-8855 *

和歌山県
 日時: 11月28日(土) 13:00~16:00
 会場: JA会館 2階和ホール
 ・特別講演 13:00~14:00
 「「手遅れです」と言われないために:
 本当は怖い皮膚のガン」
 大阪府済生会富田林病院 中川 浩一先生
 司会 宮崎クリニック 宮崎 孝夫先生
 ・皮膚ガン無料相談 14:00~16:00
問 晒医院 ☎0739-22-0169 *

鳥取県
 日時: 11月19日(木) 14:00~
 会場: 米子文化ホール
 ・一般公開講座
 「「いいひふ」つころう漢方医学」
 鳥取大学 柳原 茂人先生
問 わたなべ皮膚科 ☎0859-21-8612 *

島根県
 日時: 11月12日(水)
 ・皮膚の日にちなんで新聞に広告掲載
問 大畑医院 ☎0856-22-0506 *

岡山県
 日時: 11月15日(日)
 会場: 岡山コンベンションセンター
 ・講演
 「患者歴50年の皮膚科が語るアトピー性皮膚炎
 ~生活と治療のごつ~」
 獨協医科大学越谷病院 片桐 一元先生
問 服部皮膚科アレルギー科 ☎086-254-2323 *

広島県
 日時: 11月15日(日) 9:00~11:30
 会場: 広島市健康づくりセンター
 ・皮膚科無料相談会 9:00~11:30
 ・皮膚の健康教室 10:00~11:00
 ・講演
 「皮膚がんについて」
 広島大学病院 河合 幹雄先生
問 にいみ皮膚科アレルギー科 ☎082-830-0006 *

1 い 1 い 1 ひ 2 ふ

「いい皮膚の日」は、日本臨床皮膚科医会により制定され、皮膚についての正しい知識の普及や皮膚科専門医療に対する理解を深めるための啓発活動を行っています。

徳島県
 日時: 11月8日(日) 14:00~
 会場: 徳島ふれあい健康館
 ・市民公開講演
 「演題未定」 徳島県立中央病院 敷地 孝法先生
問 戸田皮膚科医院 ☎088-657-6111 *

香川県
 日時: 11月15日(日) 14:00~16:00
 会場: 丸亀町レッツホール 丸亀町老番街東館4階
 ・2015年「皮膚の日」皮膚がん無料相談
 ・皮膚科専門医によるホクロなどの皮膚症状の診察・相談、病院・医院の紹介
問 森岡皮膚科医院 ☎087-834-1011 *

日時: 11月19日(木) 19:00~20:30
 会場: 香川県社会福祉総合センター 7階会議室
 ・「皮膚の日」講演会
 1.「フットケアのいろは」
 香川県立中央病院 森下 佳子先生
 2.「高齢者のスキンケアと皮膚疾患」
 屋島総合病院 中瀬 美穂先生
問 森岡皮膚科医院 ☎087-834-1011 *

愛媛県
 日時: 11月3日(火)
 会場: 松山三越 8階特設会場
 ・ほくろ相談会 13:00~16:00
 ・講演会 16:00~17:00
 「演題未定」 愛媛大学 佐山 浩二先生
 日時: 11月15日(日)
 会場: 新居浜医師会 ホール
 ・ほくろ相談会 13:00~16:00
問 愛媛県医師会 ☎089-943-7582 *

福岡県
 日時: 11月15日(日) 13:00~15:00
 会場: アクア博多(福岡市)
 ・皮膚の日・市民公開講座
 テーマ「かゆい皮膚病(夏編・冬編)」
 1.「かゆい皮膚病(夏編)」
 2.「診察室あるある」 黒田クリニック 黒田 真臣先生
 3.「かゆい皮膚病(冬編)」
問 黒田クリニック ☎093-611-5225 *

佐賀県
 日時: 11月8日(日) 14:00~15:00
 会場: 佐賀市文化会館3階大会議室
 ・市民公開講座 司会 中尾医院 三砂 範幸先生
 1.「ニギビの話」 佐賀大学 久富 万智子先生
 2.「アトピーのお話」 織田病院 大津 正和先生
問 凌皮膚科医院 ☎0952-23-3226 *

熊本県
 日時: 11月15日(日) 9:40~11:30
 会場: くまもと県民交流館 バレオホール
 ・市民公開講座
 「ひふのかさかさスキンケアを怠ったらどなるの?」
 くまもと森都総合病院 城野 昌義先生
問 くまもと森都総合病院皮膚科 ☎096-364-6000 *

大分県
 日時: 11月3日(火) 10:00~16:00
 会場: コンパルホール(大分市)
 ・健康相談
 ・TOSテレビ大分主催の「子育て博覧会2015」において乳幼児・児童の皮膚疾患の健康相談
 ※耳鼻喉科、小児科、眼科、歯科、婦人科も参加
問 皮膚科市川医院 ☎097-533-0908 *

日時: 11月15日(日) 13:00~16:00
 会場: ホルトホール(大分市)
 ・市民講演会
 1.「皮膚がんのはなし」
 別府医療センター 甲斐 宜貴先生
 2.「子どもに多い皮膚感染症のおはなし」
 ~とびひ、いぼ、みずいぼ(仮)~
 濱田皮膚科医院 濱田 尚宏先生
問 「皮膚の日」実行委員会事務局 (大分大学医学部皮膚科医局内) ☎097-586-5882 *

宮崎県
 日時: 11月8日(日) 14:00~15:30
 会場: 宮日会館 11階ホール(宮崎市)
 ・講演会
 「忘れてほしくない病気~成人T細胞白血病リンパ腫」
 青木皮膚科 出盛 允啓先生
 ・院内掲示用ポスターの作製
 タイトル「皮膚科と救急」
問 ならはら皮膚科医院 ☎0986-22-1455 *

鹿児島県
 日時: 11月8日(日)
 会場: 鹿児島県医師会館3階中ホール
 ・講演会
 「演題未定」 鹿児島医療センター 松下 茂人先生
問 ひふ科形成外科 西クリニック ☎0995-67-2412 *

沖縄県
 日時: 11月3日(火) 13:00~15:00
 会場: 沖縄産業支援センター 中ホール
 ・皮膚の日市民講座
 1.「つたえたい!!思春期ニキビのママ知識」
 美里ヒフ科 平良 清人先生
 2.「紫外線と皮膚~光老化について~」
 金城町皮膚科 平良 真希子先生
 3.「島ヤサイと美肌の関係~簡単レシピの紹介~」
 ヘルスプランニング カエ 伊是名 カエ先生
問 金城町皮膚科 ☎098-855-4112 *

ハーイ！アトピーづき合い40年の友実です



フリーアナウンサー 関根 友実 連載第22回

前回に引き続き目のアレルギーが落ち着かず、できるだけメイクをしないようにしている日々を送っています。メイクといえば、メイクを始める年齢が低下しているようです。最近だと小学校高学年になると、メイク道具を買い始めるのだとか。中学三年生の娘の友人たちも、当たり前のように夏は美白、旅行にはたくさんの美容用具を持参するようです。すでに基礎化粧品をしている子もいたり、二重にする効果のある接着剤を瞼に塗っていたり、色付きのリップクリームやマスカラ、チークなどは、必須アイテムなのだそう。今から30年前、私が中学生の頃はビューラーでまつ毛を上げている子がいれば、話題になったくらいです。まあ、校風もあるのかもしれませんが。

流行に疎かった私が初めて化粧品を使ったのが、大学に入る時に姉からもらった「アイブロー」でした。アトピーがおでこのあたりに長く出ていたせいとか、もともとなのか、眉毛がとても薄かったのです。顔にひどく出ていた小学生の頃は毛根のあたりに湿疹がでていたせいとか、ほとんど生えていなかったのですが、分厚い前髪で隠しているうちに、高校の頃になると「このあたりが眉毛の位置」と推察できるくらいには生えていました。それでも、当時流行は「薄い前髪」に「くっきり眉」だったので、姉も私の大学デビューを少しでも後押ししたいと思ってくれたのだと思います。

ファンデーションデビューは大学3年の頃、就職活動を前にして必要に迫られてようやく重い腰を上げた状況でした。周りの友人たちはすでにメイクも上達し、目元ぱっちり、リップライナーを巧みに使いながら惚れ惚れするような美しい唇に仕上がっていました。パーツメイクよりも基本は肌を整えるところからと友人に勧められ、まずは基礎化粧品を選ぶところから始めました。肌を整えること、基本とされるそのことが、ずっと肌にコンプレックスを抱え続けてきた私にとっては大きなハードルでした。肌に合う基礎化粧品を見つけるために様々なメーカーの試供品を手当たり試してみました。肌に合うどころか、炎症を起こさないものを見つけるのに一苦労です。肌に付けてから二日ほどしたら真っ赤にただれるものから、付けてすぐにヒリヒリするような違和感を覚えるものまでありました。20種類くらい、試したと思います。かろうじて炎症が起きないものにたどり着いた時には、「巡り合えた」感動がありました。

女の子にとってお化粧品は、大人への階段を一步昇るような、「わくわく」する行為だと思います。でも、私にとっては「ハラハラ」するものです。マニキュアでかぶれたり、付けまつ毛のノリで粘膜が腫れ上がったりすることもありました。言うなれば「格闘」であり、「挑戦」でしょうか。それでも、しっくりくるものにたどり着くと、生涯の友に巡り合え

たような気分になります。不思議なものですね。

関根 友実 プロフィール

元朝日放送アナウンサー。女性で初の全国高校野球選手権大会の実況を行う。現在は臨床心理士の資格を取得し、心療内科で勤務する傍らフリーアナウンサーとしてテレビ・ラジオで活躍中。アトピー性皮膚炎、アトピー白内障、アレルギー性副鼻腔炎、アレルギー性気管支喘息、蕁麻疹など、幼少期より様々なアレルギー疾患を経験。現在も家庭と子育て、仕事、自らのアレルギーに奮闘中。

ちょっと 気になる ニュース

欧州でブタクサ花粉症大流行の兆し？

ちょっと遠方の話で関係なければと願いたいところですが、欧州大陸北部と英国南部に深刻なブタクサの影響が考えられるとされています。日本標準時子午線の上にある明石市立天文科学館は北緯34度。偏西風が吹いている緯度付近ですが、欧州の同緯度はギリシャやエーゲ海、アフリカ大陸の北部モロッコやチュニジア辺りになるので、日本までそよそよと風に乗ってやってくることはないと思いますが、秋も春と同じレベルのムズムズは勘弁してほしいですね。ブタクサは北米原産で、南米、ヨーロッパ、アジア、オーストラリアの広い範囲で外来種として移入分布しています。日本には明治初期（明治元年＝1868年）に渡来して、昭和初期に定着。1972年に採集されました。7月末頃から10月頃まで開花し、約2～3ミリの小花が複数集まった房が細長く連なった形状で、高さ1メートル程のキク科ブタクサ属の一年草。現在では、沖縄を含むほぼ日本全国の道端や河原など何処にでもと云ってよい程の繁殖力で分布しています。アレルギー体質の方が、この季節、愛犬の散歩で春と同じく鼻がムズムズときたり、足の脛あたりに、ぶちぶちと赤い湿疹などが現われたらブタクサの影響かも。草むらにはマダニも潜んでいるかもしれませんので、十分注意して下さい。さてフランスの気候環境科学研究所のフランス・イギリス・オーストラリアの国際チームが発表した論文によると、ブタクサは現在、イタリア北部やフランス南東部に定着して分布を拡大しており、この傾向が続けば欧州大陸北部と英国南部にまで拡大し、深刻な影響を及ぼす可能性があるとしています。ブタクサの花粉の大気中濃度は2050年までに、平均して現在の約4倍になる見通しと研究チームはしています。その結果、ブタクサアレルギーの発症率と有病率が上昇する可能性を指摘しています。遠く離れた場所ですがブタクサは非常に繁殖力も強く、飛行機の車輪などにくっついて簡単に入国してくるかもしれません。またブタクサの花粉症がある方は「あとびいなう」2013年3-4月号でも紹介しましたOAS（口腔アレルギー症候群）との関連性も注意して下さい。ブタクサの花粉との関連性が報告されている食物は、スイカ・メロン・バナナ・キュウリ・ズッキーニなどで、ブタクサによる花粉症の方が食べると口・唇・喉などで、イガイガ感などのアレルギー症状を起こすケースがあります。またヨモギも秋の花粉の代表格です。ヨモギの場合は、ニンジン・セロリ・リンゴ・キウイ・ピーナッツなどでOASとの関連性が報告されていますので、秋の散歩にもマスクは忘れずです。



ブタクサ(画像 ウィキペディアより)

Smile Cotton®

(株)スマイルコットンは、心地よい肌触りの生地を提供するテキスタイルメーカーです。

Smile ポイント!!

- 糸を「ワタ」に近づけているので、繊維と繊維に層が吹き、素材に3つの特徴が生まれました。
- ① いつまでも続くやわらかさと軽さ
- ② 吸水性と乾きやすさ
- ③ 保温性

スマイルコットン オフィシャルWEBサイト www.smile-cotton.com

送達ご希望の方はご連絡ください。 書面・メールにて受付中

日本アトピー協会通信紙 あとびいなう

通信紙「あとびいなう」は積極的な治療への取り組みと自助努力を促すことを趣旨とし多くの患者さんに読んでいただきたく無料でお届けしております。ご希望の方はお届け先・お名前・電話番号やメルアドなどをお知らせください。患者さん・医療従事者の方に限定しておりますが一般の方もご希望でしたらご連絡ください。スクリーニングの結果、お届け出来ない場合もありその節はご容赦ください。なお協会ホームページからもお申し込みいただけます。

次号発行予定 1月12日

〒541-0045
 大阪市中央区道修町1-1-7日精産業ビル4階
 電話 06-6204-0002 FAX.06-6204-0052
 E-Mail jadpa@wing.ocn.ne.jp
 Home Page <http://www.nihonatomyjoin-us.jp/>

ドクターインタビュー

河合 修三(かわい しゅうぞう)先生

皮膚科シュウゾー 院長

大阪府豊中市、地下鉄御堂筋線「緑地公園」駅から徒歩1分。平成15年に開院された「皮膚科シュウゾー」で、アトピー性皮膚炎、ニキビや巻き爪など、様々な治療を行ってられる院長の河合先生にお話を伺いました。

—— 医院の特長、先生の治療方針などお聞かせください。

当院では、これまでの様々な臨床経験を基にして皮膚疾患の診療を行っています。様々な治療を受けてきたが、なかなか良くならないと患者さんが困っておられる多くの疾患を、新しい治療方法を取り入れながら一つでも治すことを最大の目的としています。

アトピー性皮膚炎で初めて来院される患者さんには、皮膚の構造から説明します。話だけでは伝わりにくいので、モニター画面を駆使して病状をわかりやすく説明し、患者さんと目標を一緒にして、治療に向えるよう心掛けています。アトピーはこういう病気だよと理解してもらおうと、患者さんの治療に対する認識も変わってきます。

—— 日々の診療で感じておられる事や、先生の治療法についてお聞かせいただけますか。

少し前に広島大学からアトピー性皮膚炎の原因にマラセチアが関係しているという研究結果も出ていますが、私もアトピーにマラセチアが関係していると考えています。マラセチアとは、健康な人にもある皮膚常在菌でカビのことで、

アトピー性皮膚炎の治療は、脂漏部位(頭や顔、胸や背中の中中部など皮脂が多くでる部位)以外は、従来どおりステロイド外用剤を使用します。脂漏部位に関しては、極力プロトピック軟膏(タクロリムス軟膏)の使用を勧めています。ステロイド外用の最大の良い理由は、ステロイドが皮膚の脂漏部位のマラセチアを増殖させる可能性があることです。つまり、誰にでもあるようなカビが増えてしまうんですね。皮膚萎縮が起こるのも良くありません。なので、ステロイドで皮膚炎を抑えていても、皮膚が薄くなってカビを増やし、マラセチアの抗体価が上がると悪循環になってしまいます。

白癬菌の感染においてもステロイドの外用で悪化することがあり、ステロイドが原因はマラセチアであると考えられる皮膚科医も多くおられます。成人の顔面など脂漏部位に皮疹を有するアトピー性皮膚炎の人の多くが、マラセチア抗体価が高く、治療には抗真菌剤(カビの薬)が有効であることが報告されています。その点、プロトピック軟膏はマラセチアへの抗真菌活性も報告されていて、理論的に優れているだけでなく、実際の治療成績にも差があると感じています。しかし、顔面や頸部にステロイド外用を長く続けている場合、プロトピック軟膏に変えると、ほてって、ヒリヒリして、激しい刺激感で辛く、患者さんが我慢できなくて続けるのが困難なことが多々あります。

そこで当院では、アレルギー症状を抑える薬「リザベン」「オノン」、炎症をやわらげる漢方「柴胡清肝湯」など内服薬を併用して、プロトピック軟膏の外用を勧めています。すると、刺激感などが減りプロトピックの外用が可能になるだけでなく、内服の効果で全身の皮疹に改善効果も得られます。これらの内服薬と、ステロイドと同じ免疫抑制剤だけれども、抗真菌活性がありなおかつ皮膚萎縮の起こらないプロトピックを使用することが私の治療法の一歩のエッセンスです。

—— 具体的にどのように治療を進めていかれるのですか？

ステロイド外用剤を塗ってなかなか治らないという方も、プロトピックの外用と先ほどの飲み薬で治療するとつるつるになる患者さんが多くいます。皮膚の状態を良くしていくことが大切ですね。体の末端はステロイドでもいいと思いますが、顔の症状が酷い場合、目が悪くなる可能性があるため従来どおりの治療で良くならないなら、なるべくステロイドに頼らないように、保湿をちゃんとしてプロトピックを外用します。そして、リザベンを内服して治らないときはオノン、それでもだめなときは柴胡清肝湯を使います。柴胡清肝湯は、本来は子どもが使うような漢方と言われていて、濃んでいるようなジクジクした症状にも効きます。大人の神経症などにも効くといわれ、服用すると性格が穏やかになってくることが多いです。脳と神経と皮膚は相関するといえますね。リザベンは年配の女性の場合膀胱炎などになる場合があり、高齢の人は肝障害が出るケースがあるので気を付けて処方します。

DOCTOR INTERVIEW



DOCTOR INTERVIEW

河合 修三(かわい しゅうぞう)先生のプロフィール

昭和60年関西医科大学皮膚科学教室入局後、倉敷中央病院皮膚科に出向。
帰向後、同大学皮膚科学教室にて医局長、外来医長、病棟医長、講師を歴任。
平成15年8月「皮膚科シュウゾー」を開院。

日本皮膚科学会、日本褥瘡学会に所属
大阪皮膚科医会 会長
日本臨床皮膚科医会 近畿 理事
日本フットケア技術協会 理事
活発な医学会報告活動、皮膚疾患治療についての講演も多数。
著書、国内外に多数。

後は食生活。なるべく和食、特に油っぽいものは控える。また、脂漏部位が悪い人でマラセチアが原因の患者さんにはオリーブオイルを控えてもらっています。脂漏性湿疹で治療にこられる年配の患者さんは、オリーブオイルをよく摂取している場合が多いんですよ。

また、脂漏性湿疹も新生児が瘡も基本的にはマラセチアが原因のことが多いのでステロイドの使用はよくありません。皮膚炎は一時的に収まりますが、カビが増えますからね。辞めると悪くなるのを繰り返すので、ポロポロになってしまうんですね。カビのお薬で良くなりますが、皮膚科の先生はあまり使用しません。アトピーの治療にもマラセチアが関連している範囲は広いので、カビを考えた治療が大切です。長い間ステロイドを外用している人も、前述の飲み薬とプロトピックで早く良くなりますよ。いろいろなケースがあって、見極めが大事ですがこの治療法でほしい改善されます。あまり浸透していませんが、広まればいいなと思っています。

—— 診察室で患者さんを診ておられて、最近の傾向やお気づきのことなどお聞かせください。

アトピーの人は、四季に応じて症状が出て休まるときが少ないですね。最近は涼しくなって過ごしやすくなりましたが、朝晩の温度差で乾燥し悪化する方もおられます。3月下旬からゴールデンウィークまでは、杉や檜の花粉、檜の方が全身に影響がでる人が多いように感じます。夏は汗自体が肌に悪い。汗は汗が肌に染みこんで悪くなるので、夏でも保湿剤は塗るように指導しています。汗が出ないのは、肌が乾燥して汗が染みこんでしまっているからで、肌が整えば汗が浮き出て来て、汗が出るようになっていく場合もよくあります。汗の影響は大きいですね。

—— 患者さんへメッセージをお願いします。

アトピー性皮膚炎は、基本的には、医療でないと治せないと思います。自分に合った治療法を見つけてください。「いいとこどり」の治療をしないとね。漢方薬だけでも難しいし、プロトピックだけでも難しい。でもいいお薬を組み合わせるといい成果がでる場合があると思います。食生活を和食中心にする、ダニ・ほこりを減らすなど環境を整えることも大切です。今アトピーの患者さんは10人に1人とされていて、自分だけが苦しんでいるわけではありません。大変ですが治療をあきらめず、解決策を見つけて少しでもいい状態を保てるようにしましょう。

—— 本日は、ありがとうございました。

第52回日本小児アレルギー学会・市民公開講座のお知らせ



子どもたちに喜々とした生活を

第52回日本小児アレルギー学会(平成27年11月21日・22日)が開催されます。天理よろづ相談所病院小児科部長兼小児アレルギーセンター長の南部光彦先生が会長をお務めの今学会のテーマは、「和を以てつなげようアレルギー診療の輪:子どもたちに喜々とした生活を」。また、キャッチコピーは「[パッション・アクション・コネクション]とされており、情熱を持ち行動し強固なアレルギー診療の輪を広げたいという願いが込められた学会

です。また同学会開催中には、はぐくみセンター(奈良市保健所)で市民公開講座「子どもたちに喜々とした生活を～家庭での注意点～」も下記のとおり開催されます。(http://jspaci52.umin.jp/)

市民公開講座

「子どもたちに喜々とした生活を～家庭での注意点～」 開催概要

(日 時) 平成27年11月22日(日) 14:30～16:30
(会 場) はぐくみセンター(奈良市保健所)9F 大講堂
(所在地) 奈良市三条本町8-1 (JR奈良駅西口から徒歩5分)
(定 員) 200名(入場無料・先着順となっています)

(プログラム) 座長: 吉田 晃(日本赤十字社和歌山医療センター小児科部長)
◆「アトピー性皮膚炎の疫学や原因から日常生活での注意点を考える」

原崎 正土先生(静岡県立総合病院小児科主任医長)

◆「気管支ぜんそく児の家庭での注意点」

浅井 康一先生(国立病院機構京都医療センター小児科医長)

◆「食物アレルギー～子どもの喜々とした生活を支えるために家庭でできること～」
平口 雪子先生(大阪府済生会中津病院小児科)

小児科先生3名による、日常生活で直ぐに役立つ講演内容となっています。講演時間も2時間とたっぷりありますから通院の診察中では、なかなか聞けない詳しいお話が聴講できる絶好の機会です。また翌日の23日(月)は勤労感謝の日で祝日でもありますから、ぜひともこの機会にご参加ください。

【お詫び】

前号の「あとびなう」にて上記学会付設展示会への参加を掲載しました際、学会会長の南部先生のお役職間違い、また誤字がありました。大変失礼致しました。お詫び申し上げます。

～様々な関連情報、ほかにもあります。～

今回、取り上げました「アトピー・アレルギーの今を知る」では、様々な研究結果に今後の期待を寄せたいところですが、ほかにも興味深い情報がありました。先日のイグ・ノーベル賞医学賞(人々を笑わせ、そして考えさせてくれる研究)の受賞は、多くのマスコミが報道しましたので耳にされた方も多いと思います。受賞理由は「情熱的なキスの生物医学的な利益あるいは影響を研究するための実験」だそうです。アトピー性皮膚炎やアレルギー性鼻炎の患者さん、そしてそれらの症状が無いヒトを、それぞれ30名ずつ合計90名に対して、恋人やパートナーと静かな音楽が流れる個室で30分間、自由にキスをしてもらいキスの前後でアレルギー反応を調べた結果、キスをした後ではアレルギー特異的IgE産生が減少しました。2週間後、同じカップルに今度はキスをせずに部屋で30分間抱き合ってもらった実験では同様の効果は確認出来なかったそうです。これなら即実行!という訳にもいかないですが、やはり気が許せる相手と静かな空間でお互いの愛情確認という行為は、ストレスの軽減が大きく関与しているのでしょうか、抱き合うだけでは効果が無いとなると、唇が触れ合う効果?あるいは唾液?それとも特別なホルモンの分泌?が関与しているのでしょうか。その他にも、これはイグ・ノーベル賞とは無関係ですがアトピー性皮膚炎患者さんに対する「ノセボ(ノーシーボ)効果」の研究が行われました。有効成分を含まない偽薬が治療効果を上げる「プラセボ(ブラシーボ)効果」は良く聞きますが、「ノセボ効果」は、その反対で有害ではないはずの物質でも症状を起こしたり、悪化を示す反応を云うようです。実際に「これは吐き気を起こす薬だ」と云って砂糖水を飲ませた実験では80%のヒトが吐いたそうです。そこでアトピー性皮膚炎患者さん14名に生理食塩水を腕に触れさせ、それを無害であることを知らせた時と、知らせなかった時(ノセボ)では、無害と知らせなかった方が強い痒みを引き起こしたそうです。また花粉などの物質でも同じような結果となったようです。そうすると花粉とは云わず「これは無害です」と知らせた時より、花粉とも何も云わず触れた方が強い痒みを引き起こしたこととなりますが、「無害」という言葉が心理的に影響した結果でしょうか。やはり得体が知れないものが触れたという心理的要因が大きいのかもかもしれません。またノセボで痒みを強く感じた人ほど、プラセボで行った偽薬治療によって、痒みが軽くなる傾向も見られたようです。やはり痒くなったら止まらないという心理的要因が強く働いているようにも感じますね。効かない。あるいは気が進まないと思いつながらのお薬の飲用や外用は、その効果を減少させているのかもかもしれません。「病は氣から!」が科学的に解明される日も近いのかもかもしれません。

読んでみました!! この書籍!!

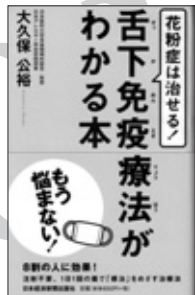


みなさんのご参考になれば幸いです。読めば参考になったり、反対に落ち込んだりする事もあるかもしれませんが、頑張って前向きに捉えて行きましょう。

【タイトル】「舌下免疫療法がわかる本」

【著者】大久保公裕 【出版社】日本経済新聞出版社 【定価】本体850円 + 税

飲み薬は眠たくなったり、点鼻薬もその場しのぎ?鼻うがいのスッキリも長続きしませんね。本当にづらい花粉症ですが、症状が酷い方は既に皮下注射による免疫療法をされる方やレーザー治療などされている方も。著書の舌下免疫療法は、まさに舌の下にスギ花粉を含んだ液剤を滴下して暫く放置して舌の下の粘膜から吸収させます。初めは検査の為に通院は必要ですが、日々の滴下は自分で行うため通院は最小限で済みます。さてその効果ですが、皮下注射による免疫療法と変わらない効果が期待されていて、約8割のヒトに効果があると考えられています。ただ花粉のアレルゲンに対する免疫を獲得するまで約2年間の継続が必要となります。また、花粉が飛び約半年前から舌下して、最初の花粉症シーズンで症状が軽減する人もあるようですが、反対に1年目に全く効果が無かった人も2年目に大きな効果が現れる人もいます。但し、この液剤は現在スギ花粉のアレルゲンだけを用いています。スギ・ヒノキ共にアレルギー反応を示す人には効果が期待出来ませんが、ヒノキのみアレルギー反応がある或いは強い場合、あまり効果が期待出来ないことも。また妊婦さんや重篤なアレルギー反応を持っている人、喘息症状がコントロール出来ない人、そして現時点では12歳以上でないと治療は受けられません。QOL(生活の質)低下が著しい花粉症。何とかしたいですね。



【タイトル】「なぜ皮膚はかゆくなるのか」

【著者】菊池 新 【出版社】(株)PHP研究所 【定価】本体760円 + 税

ストレートボールをど真ん中に投げられ、敢え無く三振という感じです。確かに、ダニ・ほこり・ダいや食べ物が悪い!とあれこれ原因を探すが「じゃあ何故痒くなるの?」と結果を考えないのも片手落ち?のような気もしますね。そこは研究者にお任せでは、自らの痒みは何故治まらないのか理由の判らないまま、やはり嗜癖的に掻くという行為も認められている訳ですから、知っておくことも大切かもしれません。痒みの研究はとて進んでいるようで、痒みは軽い痛みと考えられていた事も誤解だそうです。皆さんを苦しめる痒みですが、掻くことによって気持ちいいという感覚を得てしまったため止まらなくなってしまいます。また痛みは本来触れたり触れられたくない感覚なので、掻き壊す事で痛みがすり替わっているそうです。掻くという行為は、やはりその部分から何かを取り除こうとする本能的行為で、掻き壊して触れたくない感覚位の状態にしてしまう様です。また痛痒いという感覚は、痛みと痒みが同時に起こっている状態だそうです。掻いて快感を得る事を身体と脳が記憶しているために、痒くない時でも脳が快感を得るために無意識に掻いているアトピー患者さんも多いとの事。ただ痒みという感覚は搔ける所しか出ない感覚で、内臓が痒いとはならない部分など、まだまだ解明されていく感覚なのでしょうね。でも考えるとまた痒くなりそうです。



図書の貸し出しいたします。詳しくはお問い合わせください。

TEL 06-6204-0002 FAX 06-6204-0052